



LIFE STYLE
CONSCIOUS HOUSE

03

大工集団
くじらぐみ

文 / 萩原美穂 撮影 / 金井良介

FAVORITE POINT



最高の景色を切り取るピクチャーウィンドウ

北に八ヶ岳、西に甲斐駒、南には富士山が見える絶好のシチュエーション。方角やサイズを考慮して設けられているピクチャーウィンドウからの借景は秀逸で、まるで絵画のよう。



HOUSE DATA
●所在地: 北杜市 ●家族構成: 大人2人
●間取り: 4LDK+土間 ●竣工: 2019年4月



ヒノキの香りが漂う玄関。向かって右がリビング&ダイニング。左は大容量の靴箱。奥に見える昭和テイストな建具もレトロな趣があって素敵。



すっきりと広い玄関ポーチ。日本の伝統工法を用いた、垂木張りの屋根と、下見板張りの壁が、印象的な表情を創り出している。



F様邸のある土地はなだらかな傾斜が続いているため、石垣を作り地盤を強固にしてから家を建てた。「これはボクのマチュピチュです」とご主人。とても気に入っているという。



山々に魅せられて

共通の趣味はトライアスロンというF様ご夫妻。豊かな自然と雄大で美しい山岳美に魅せられ、数年前から週末ごとに通い、トレーニングを兼ねてサイクリングやランニングを楽しんでいたところ、縁がつながり、幸運にも絶好の土地を譲ってもらえることになった。当初お二人はこの土地に、ご主人のルーツでもある北欧からログを輸入し、家を建てようと考えたという。ところが、ご主人がいくつかの業者と連絡を取り話してみると、「彼らの対応はとても事務的で距離感がある。施工は地元で工務店が担当するというけれど、具体的に誰が担当するのかもわからない。ちょっと違うな」と断念することに。気落ちした様子のご主人に、大工集団くじらぐみを訪ねてみようかと提案したのは奥様だった。「社長さんには、ご自宅とオフィスを見せてもらいました。日本の伝統的な工法で建てられた住宅。とてもいいなと。それから工場に案内してもらい、材料の木や大工さんが働いている様子も見せてもらって、ああ、僕らの家も、こういう木を使ってこうやって作ってくれませんか」と感じました。大工さんはみんな山梨県民。建てた後もずっとお付き合いが続いていく。とても親しみがわきました」とご主人。奥様も、「工場にあった木には、一つ一つ印がしてあり、それを組み合わせて家を作っていくのだと社長さんに教えて頂きました。輸入住宅もいろいろありますが、日本にはこんなに木があるのだし、社長さんは材木の産地を訪ね、ご自身で目利きして購入し、丁寧に家を建てていらつ



愛を紡ぐ家

デンマーク生まれのご主人と、都会育ちの奥様が、熟慮の末に選んだのは、杉やヒノキをふんだんに使い、伝統工法で創り上げた、日本の木の家でした。



- LDKの一角にあるオープンキッチン。左手の等身大の窓からは八ヶ岳の山容がきれいに見える。「毎朝朝食を探りながら八ヶ岳が見える。とても、幸せな気分が一日が始まるの」と奥様。
- 室内の壁には、外壁にも用いられる耐久性抜群の珪砂塗装を採用。ここの跡が、手作りのぬくもりを伝えている。
- 主寝室。ベッドから、憧れの甲斐駒ヶ岳を眺めることができる。
- 主寝室には、広いウォークインクローゼットを併設。
- 玄関西側の引き戸は、ご主人のワークスペース兼自転車用ガレージへの出入口。両側に棚を作り、床を土間にして、自転車やバイクのチューニングルームに。室内側には机とPCを設置して、書斎としても活用している。
- 客室にもなる6畳の和室。窓の外には、四季折々の自然の風景が広がり、その奥に美しい富士山の姿が見える。「外国から友人が遊びに来たときは、ここに泊めてあげるの。みんな、『OH! FUJISAN!!』って感激してくれるのよ」(奥様)
- 2階は大広間に。北に八ヶ岳、西に甲斐駒ヶ岳を眺められる最高の空間になった。将来的には、この部屋を会場にして、お二人のキャリアを活かしてのセミナーやワークショップの開催を考えているという。
- 2階南側に設えた奥様のワークスペースは、片流れの屋根の影響で屋根裏のような雰囲気。隠れ家のような、山小屋のような、素敵な空間。
- 敷地の南側から見上げたF様邸。

しやる。そういう家の方が、私たちにとって価値が高いよねというところで一致して、大工集団くじらぐみにお願いすることにしたんです」と、穏やかに振り返る。



日本の伝統工法で作られた 本物の木の家

玄関を中心に「く」の字型に折れている、ユニークな形状のF様邸。玄関を入って右手は平屋作りのパブリックスペース。中心となるのは、古材の梁が印象的な、木の香漂う広々としたリビング&ダイニング。中央に鎮座する、滑らかな光沢を讃えた大黒柱。日差しをたっぷりと取り込む大きな窓の外には、緑豊かな雄大な自然が広がり、富士山の美しいシルエットが浮かび上がっている。続く和室は、南向きの気持ち良い部屋。落ち着いた金色の襖と、すっきりとしたデザインの建具。日本の良いところを凝縮したような品の良さが醸成されている。

一方、左側は二階建てのプライベートゾーン。主寝室、トイレと続き、一番奥にご主人のワークスペースが控える。「家の間取りについては妻と僕でいろいろと考えていくつかリクエストもしたけれど、建築のことはわからないので、社長さんに全部お任せしました。だから、完成した家を見て驚いた。この梁は『金輪継』という釘を使わない手法で繋がっていますし、屋根や構造にも日本の伝統的な工法がいろいろ使われている。とてもいいですね。この家を通して、ベテランの大工さんから若い大工さんにかつた工法が伝わっていくというのも、嬉しいなと思います」とご主人。完成した家の写真をアメリカで暮らすお兄さんに送ったところ、「この家の屋根は、北欧の造り

と同じだ。懐かしい」と返信が来て驚いたと意外なエピソードも教えてくれた。



いなか暮らしを満喫

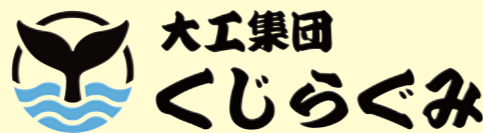
山梨での暮らしが始まって約半年。家の周囲では、お二人が育てている可憐な花々が秋風に揺れている。「わずかだけれど、畑もやっています。この夏は、トマト、ピーマン：無農薬でもとても美味しかった。来年はもっとやりたいな」とご主人。ご近所の方々との交流も広がっているそう。「裏の奥さんには、お野菜を分けていただいたり、お料理を教えていただいたり、娘のようにかわいがっていたらいいのよ」と、奥様も楽しそう。

それぞれ東京と甲府に仕事を持ち忙しく過ごしているが、予定のない週末には連れ立って出かけるそう。「先日は、サントリーの登美丘ワイナリーに行ってきました。テイステイングができて残念だったけれど、とてもいいところね。諏訪湖の周遊もいいし、昇仙峡も魅力的。ここはサイクリングに最適な場所がたくさんあるから、ぜひ行ってみたいと思っているの」と声を弾ませる奥様。その様子を優しいまなざしで見つめながら、「僕にとつての一番は、妻の口から、『この家に帰ってくるとホッとする』という言葉が聞けたこと。場所的な自然ということももちろんあるでしょうが、一番は家の中の雰囲気。木材がこれだけふんだんに使われているから、心が癒されるんだと思います」と語るご主人。二人を包み込む柔らかな秋の日差し。たおやかで愛おしい、豊かな時間が流れていた。

願いはひとつ、家族のしあわせ

ご家族の思いや暮らしのあり方と真正面から向き合い、「どれだけ幸せに住み続けていただけるか」を大事に考え、「本当に必要な家」をご提供することに努力しています。

すべて自由設計で
プランニングします。



大工集団
くじらぐみ

有限会社 高橋建築舎

〒409-1501 山梨県北杜市大泉町西井出8240-6959 TEL 0551-38-8151 / FAX 0551-38-3979

http://www.takahashi-kenchikusya.co.jp/